

第4章 | めざすまちの姿 ~将来都市像~

この総合計画では将来都市像を次のとおり定め、市民とともにまちづくりに取り組みます。

花・水・緑 人がつながり 夢ふくらむまち えにわ

<将来都市像に込めた思い>



社会の成熟にあわせて、人々のライフスタイルや価値観が多様化しているとともに、人口減少、少子高齢化、社会経済のグローバル化など、かつて経験したことのない時代を迎えています。

10年後は、本市においても、少子高齢化・人口減少が進むことが予想されます。

そうした時代だからこそ、人と人の顔が見え、つながり、市民一人ひとりが人口減少に立ち向かい、いきいきと輝くことによって、活力ある恵庭であり続けることが出来ます。

また、お互いの顔が見える恵庭の規模だから出来ることはたくさんあります。

例えば、住民活動から始まった「花のまちづくり」や「読書活動」、「通学合宿」等。地域のつながり

や思いを同じくした人達の間につながりによって、今なお継続している取り組みです。

そうした中、アンケートでも市民の多くの方が「住みよいまち」と評価しています。

これは大都市、空港近郊という立地による生活利便性、恵庭岳や漁川に代表される水・緑、そして人とのつながりに囲まれた恵庭だからできる生活があるからではないでしょうか。

未来の子どもたちに豊かな自然を残し、地域で子どもたちの健やかな成長を見守り、これからも希望を持って恵庭に住み続けたいと思える環境が必要です。そのためにも情報を発信・共有し、市民、議会及び市がそれぞれの役割を果たすことにより、将来にわたって、活力ある恵庭のまちの実現につながると考えます。

第5章 | まちづくりの目標

1 まちづくりの視点

まちづくりの視点



社会環境や行財政が厳しさを増す中、めざす将来都市像を実現するためには、体系的に施策に取り組むと共に、市民、議会及び市が同じ認識を持ってまちづくりに取り組むことが重要になります。

そこで、本計画では、計画策定において開催した市民との各種意見交換の内容を踏まえ、まちづくりの視点を設定しました。

市民、議会及び市が共有するまちづくりの視点として、次に示す各種取り組みを行っていきます。

① 時代に沿った地域運営

- 簡素で効率的な行政運営
- 時代のニーズに合った柔軟な行政経営
- 多様な主体による協働のまちづくり

【キーワード】

コンパクトシティ、公共施設・サービスの見直し、協働、人口減少、地域間連携、広域連携

② 暮らしの安全安心

- 安全・安心な体制づくりに向けた窓口(コンシェルジュ)づくり
- 弱者をつくらないための世代間交流とコミュニティのさらなる充実
- 市民満足度 NO.1～豊かさ再定義～

【キーワード】

高齢者対策、防災・減災、交通の便、買い物環境、地域医療、住環境、夢と健康